

ス構築に貢献された方である。著者も昨年に行列モデルによる国内人口移動の日本の人口減少に与える影響に関する解析結果を発表しており、その研究に関する講演をすることとなった。講演前に参加する学生の自己紹介から始まり、講演後に質問が始まる。著者らの研究では行列モデルの固有システムにかんして新たに3つの定理を証明しており、その定理に関する質問や現実の人口動態との関連について多岐にわたる議論が出来た。

(大泉 嶺 記)

講演会：社会で貢献する数学

2022年12月2日(金)、北海道大学理学部数学科主催の「講演会：社会で貢献する数学」において、「日本の人口減少における地域間移動と地域別出生率の影響～行列モデルによる感度分析とその理論～」というタイトルで筆者は講演を行った。この会は、北海道大学理学部数学科の坂井哲教授主催で行われた講演会である。開催意図としては、日常純粋数学や応用数学の問題に取り組んでいる数学科の主に院生を対象として、一般社会と数学の接点を模索する事業の一つである。数学が数学としての学問で閉じているのではなく、社会科学やソフトウェア開発の分野で活躍していることを若手研究者などに知ってもらうことによって、研究のモチベーションを上げるだけでなく、研究分野の視野を広げようというものである。筆者は、タイトルのとおり行列として知られる線形代数が人口のデータからどのように人口減少の量的要因を探るか、その方法を紹介した。私の他に、低炭素社会構築のためのスキームやプログラミングコンテストの問題出題を手がける日立の岡田守氏や、幾何分野の理論を応用した物理的構造の最適化ソフトウェアを長年開発されてきた株式会社くいんと代表取締役であられる石井恵三氏が参加し、数学とその応用の歴史について大いに盛り上がる有意義な講演会であった。

(大泉 嶺 記)

NYCU Inter-Campus Forum of Population Science and Environmental Health (台湾) における web 講演

2022年12月23日(金)、NYCU Inter-Campus Forum of Population Science and Environmental Health という台湾、国立陽明交通大学(台北キャンパス)主催の講演会に参加した。当講演会では、タバコの健康被害の統計分析に基づく実情の研究や、ランダム・ウォークを用いた統計力学の数理モデルの解析など多岐に渡る研究講演があった。著者は、数理人口学の話講演した。印象的だったのは、インド系留学生が疎らに聴衆のなかにいたことである。陽明交通大学の同僚に聞くところによれば、台湾の再大手半導体メーカーである TSMC が市場規模を拡大している中で、赴任してきたインド系技術者の子供やその関係者が留学先として台湾を選んでいるようである。国立陽明交通大学は台北以外に新竹にもキャンパスがある。新竹キャンパスには応用数学科があるが、台北キャンパスではそういった数理系の学生が少なかったのもあり、著者と統計力学モデルの同僚の話は難解に映ったようである。

(大泉 嶺 記)

日本人口学会2022年度第2回東日本地域部会

日本人口学会2022年度第2回東日本地域部会は、「集落統計を考える」をテーマとして、2023年2